

1. かかりつけ医等発達障害対応力向上研修事業

(1) 研修の概要

・厚生労働省が、平成28年度より実施。発達障害における早期発見・早期治療の重要性に鑑み、最初に相談を受け、または診療することの多い小児科などのかかりつけ医等の医療従事者に対して、発達障害に関する国の研修内容を踏まえた対応力向上研修を地域で実施し、どの地域においても一定水準の発達障害の診療、対応を可能とし、早期発見・早期対応の推進を図ることを目的としている。

・年4回、国立精神・神経医療研究センターで実施。

・病院、保健所、発達障害支援センター等に勤務し、発達障害に関心を有する医師、特に指導について責任的立場にある方と、自治体（都道府県、指定都市）において、行政的な立場で地域の研修実施に携わる者もしくは発達障害者支援センター職員がペアで参加し、各自治体のかかりつけ医等の医療従事者に対して、国の研修で学んだ発達障害支援に関する情報や技能を、地域の特性に合わせたテーマで研修会を開き、伝達する。（静岡市では年3回実施し、医師、看護師、保健師、心理士などの他、テーマによっては、福祉関係機関の支援者等も研修参加可能としている。）

(2) 研修の内容（別紙 各プログラム参照）

①発達障害支援医学研修

発達障害の診断・治療と支援の実際、発達障害児に対する医学的介入と心理社会的支援の実際を学ぶ。

②発達障害地域包括支援研修 早期支援

発達障害の早期発見と早期支援について、「研究等で客観的に確認されている情報」、「好実践事例と考えられるモデル」といった異なる視点からの情報を学ぶ。

③発達障害地域包括支援研修 精神保健・精神医療

発達障害者の精神保健的な問題について、発達障害や発達特性の診断評価やその理解、併存症に関する知識、そして発達段階による臨床上的変化や診断・治療上の留意点について、「研究等で客観的に確認されている情報」、「好実践事例と考えられるモデル」、「当事者の声」といった異なる視点からの情報を学ぶ。

発達障害のある子どもや家族への支援（医療を含む）は、1）地域でアクセスできる、2）できるかぎり早期から受けられる、3）ライフステージを通して途切れなく受けられるようにすることが望まれる。現状として、専門機関への過集中、心身の健康ニーズへの不十分な対応がある。地域で支える「かかりつけ医等の医療従事者」に期待される貢献は大きいといえる。

(3) H29・H30の研修参加者実績

年度	回	参加者
H29	10回	発達障害者支援センター職員2名
	12回	医師・発達障害者支援センター職員
	23回	医師・発達障害者支援センター職員
	24回	医師・発達障害者支援センター職員
H30	11回	発達障害者支援センター職員1名
	13回	医師・発達障害者支援センター職員
	25回	医師・発達障害者支援センター職員
	26回	医師・発達障害者支援センター職員

令和元年度 静岡市かかりつけ医等発達障害対応力向上研修

＜研修の概要＞

本研修会は発達障害の早期発見・早期支援の重要性に鑑み、発達障害児者等が日頃より受診する診療所の主治医等の医療従事者等に対して、発達障害に関する国の研修内容を踏まえた研修を実施し、どの地域においても一定水準の発達障害への対応を可能とすることを目的に実施されるものである。

参加対象者は医師、看護師、保健師、心理士、支援者等としている。令和元年度においても3回開催を予定している。

＜令和元年度 開催実績＞

<p>第1回 7月26日(金) 19:00~21:00 「発達障害のライフステージの課題と支援」 愛知県医療療育総合センター中央病院 子どものこころ科 医師 吉川徹 氏 参加申込者 医師 13名 支援者 83名</p>
<p>第2回 8月9日(金) 19:00~21:00 「発達障害の子育てのヒントと地域資源」 静岡医療福祉センター小児神経科医(静岡市発達障害者支援センター所長) 前田卿子 氏 参加申込者 医師 21名 支援者 174名</p>
<p>第3回 11月27日(水) 19:00~21:00 「成人期発達障害のためのデイケアプログラム」 昭和大学医学部精神医学講座・昭和大学付属烏山病院 医師 佐賀信之 氏 参加申込者 医 10名 支援者 142名</p>